

✠059 年数の数え方

年数の数え方には、**バビロニア(バビロン)暦**と**ユダヤ暦**に基づく二つの数え方がある。

バビロン方式では王が即位した翌年から王の治世の第一年として数える。これに対して、ユダヤ方式では王が即位した年が治世の第一年として数える。従って、ユダヤ暦の方は一年多い年数となる。

【参考】

バビロニア暦とはバビロニアなどの地域で使用されたメソポタミア文明の太陰太陽暦である。

春分の頃の新月の直後を元日とする。紀元前 6 世紀までは天文観察に基づいて作られ、春分の時期を正確に予測するため恒星カペラの動きを観察していた。紀元前 5 世紀の初めより、19 年が 235 ヶ月に等しいものとする周期を採用して作られるようになった。メトン周期^{※1}の先駆とされる。

バビロニア暦の月名はバビロン捕囚の時からユダヤ暦が採用された。年の始まりを春分とする前提によっており、イラン暦のような太陽暦と共通する一方、同じ太陰太陽暦でありながら中国暦とは違いが見られる。週の起源は陰暦 1 ヶ月を 4 等分するバビロニアの祭日によるともいわれる。陰暦 7 日、14 日、21 日、28 日の月 4 日が齋または祭祀の日とされた。それが変形してユダヤ人に伝わる 7 日周期すなわち週となったともいわれる。

ユダヤ暦は、ユダヤ人の間で使われている暦法である。ユダヤ人はこの暦法をヘブライの月の算出に用いる。それによって読むべきトーラーを決め、その日に読むべき聖詩を定め、祝日を定めている。正月にあたる「ニサンの月」は大麥の収穫の始まりを祝う月でもある。

太陽暦のグレゴリオ暦とは異なり太陰太陽暦である。第 13 月（閏月）の挿入は 19 年に 7 回の頻度（メトン周期^{※1}）で行われている。

古代ユダヤには、春から 1 年が始まる宗教暦（または「教暦」「新暦」ともいう）と、秋から 1 年が始まる政治暦（または「政暦」「旧暦」ともいう）との 2 種類があったが、ユダ族（南王国）では後者を使っていたため、その流れで現代のユダヤ暦も政治暦に準拠している。

また、創世紀元、宇宙創世紀元、あるいはユダヤ紀元は、ユダヤ教において神が世界を創世した日とされ、西暦換算で BC3761 年 10 月 7 日を紀元とする紀年法である。グレゴリオ暦^{※2}との間では差があるため、現在の西暦と日付は対応していない。

※1：メトン周期

紀元前 5 世紀の初めより約 120 年間、わずかな例外はあるが、19 年が 235 ヶ月に等しいものとする周期によって暦の月数が決められた。これは、BC433 年、ギリシアのアテナイで用いられていた太陰太陽暦（アッティカ暦）を改良するため、数学者メトン（Meton）によって採用され、一般に「メトン周期」と呼ばれるようになった。

※2：グレゴリオ暦

1582 年 2 月 24 日にローマ教皇グレゴリウス 13 世がユリウス暦を改良して制定した暦法である。現行太陽暦として世界各国で用いられている。平年では 1 年を 365 日とするが、400 年間に（100 回ではなく）97 回の閏年を置いてその年を 366 日とすることにより、400 年間における 1 年の平均日数を、 $365 日 + 97/400 = 365.2425 日$ 、とすることがグレゴリオ暦の本質である。

日本では明治 5 年（ほぼ 1872 年に当たる）に採用され、明治 5 年 12 月 2 日（旧暦）の翌日を明治 6 年 1 月 1 日（新暦）（グレゴリオ暦の 1873 年 1 月 1 日）とした。